

調査概要

■ 調査目的

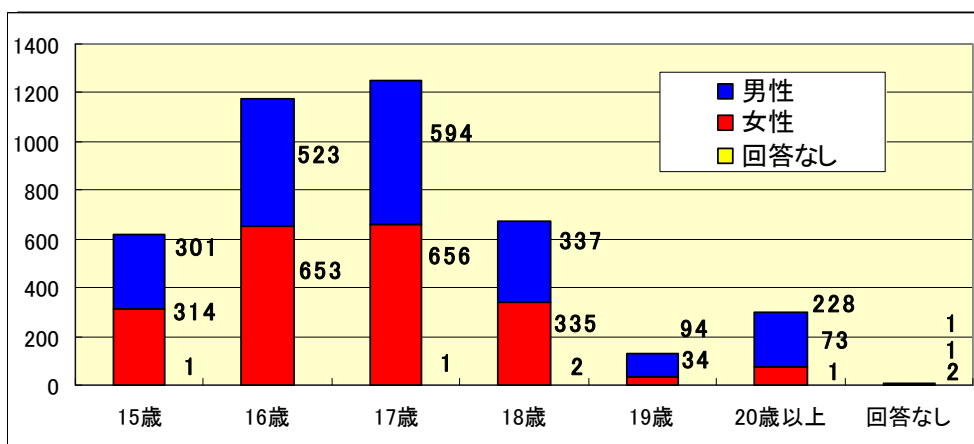
昨今、青少年を取り巻く環境が変わってきており、その中で、薬物乱用に関する意識も変化してきている。

鹿児島県(鹿屋・肝属地区)の若者の薬物乱用防止に関する意識を調査することで、地域における現状を把握し、今後の薬物乱用防止教育の参考とすること。

調査概要

■ 調査対象

鹿屋・肝属管内の、高校、高等技術専門学校、大学生を対象に調査を行った。



有効回答数: 4151名

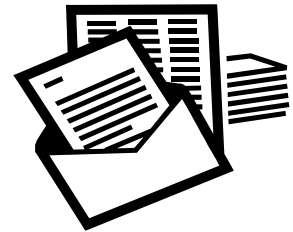
調査概要

■ 調査方法

対象学校へ封筒とアンケートを配布し，学生にアンケートを無記名で記入してもらった後，各自，封のできる封筒に入れるなど，回答者の個人情報に配慮し，回収を行った。

■ 調査実施期間

2010年9月～10月



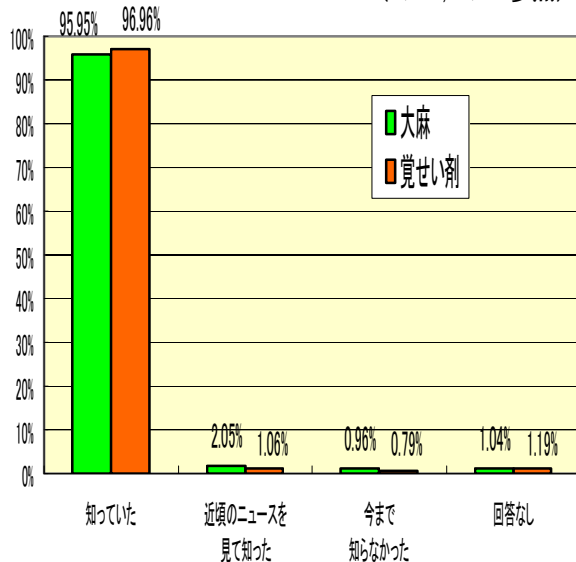
調査内容

- ・薬物乱用防止教育について
- ・喫煙(タバコ)について
- ・大麻・覚せい剤・MDMAに対する知識と認識度について
- ・薬物乱用に対する意識について

薬物に関する知識及び認識度

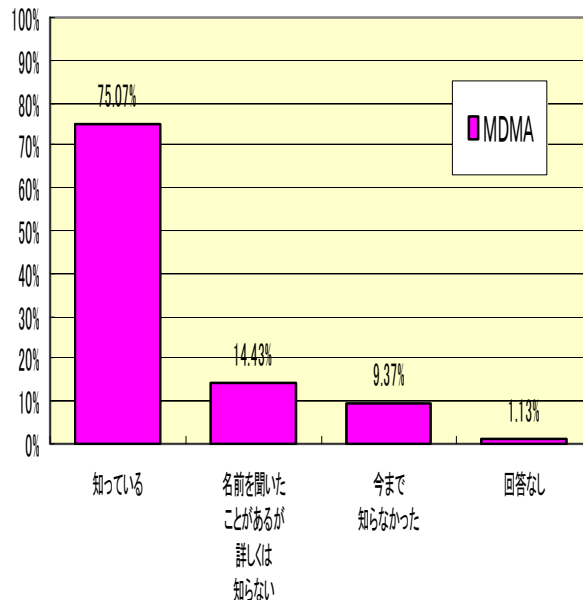
Q: あなたは『大麻』『覚せい剤』が違法な『薬物』だと知っていましたか。

(Q10, Q15参照)



Q: あなたは『MDMA』という違法な『薬物』があることを知っていますか。

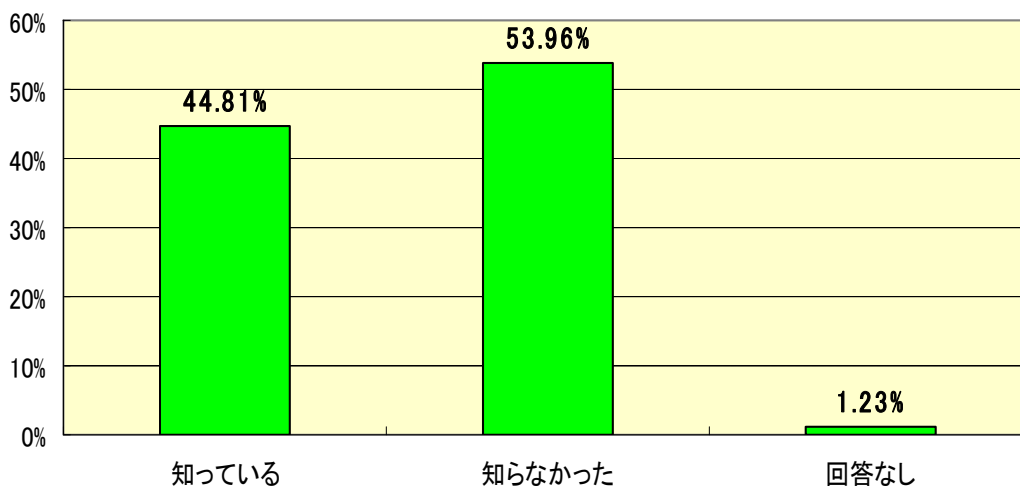
(Q19参照)



薬物に関する知識及び認識度

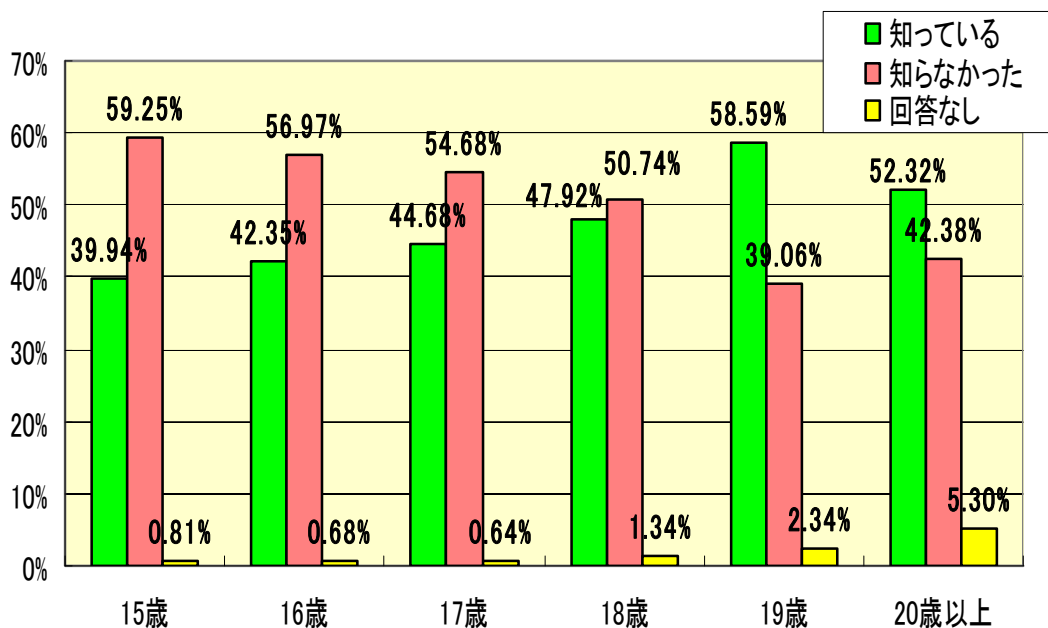
Q: あなたは、『マリファナ』と『大麻』がおなじものであることを知っていますか。

(Q11参照)



薬物に関する知識及び認識度

Q: あなたは、『マリファナ』と『大麻』がおなじものであることを知っていますか。(Q11参照)



薬物乱用に対する意識

質問内容

Q:『薬物乱用』を誘われた場合の行動で、
あなたの最も正直な気持ちはどれですか。

1, 誘った相手が誰であろうと, どのような『薬物』であろうと断る

➡ 断固として断る強い意識

2, 誘った相手によっては, 断り切れないかもしれない

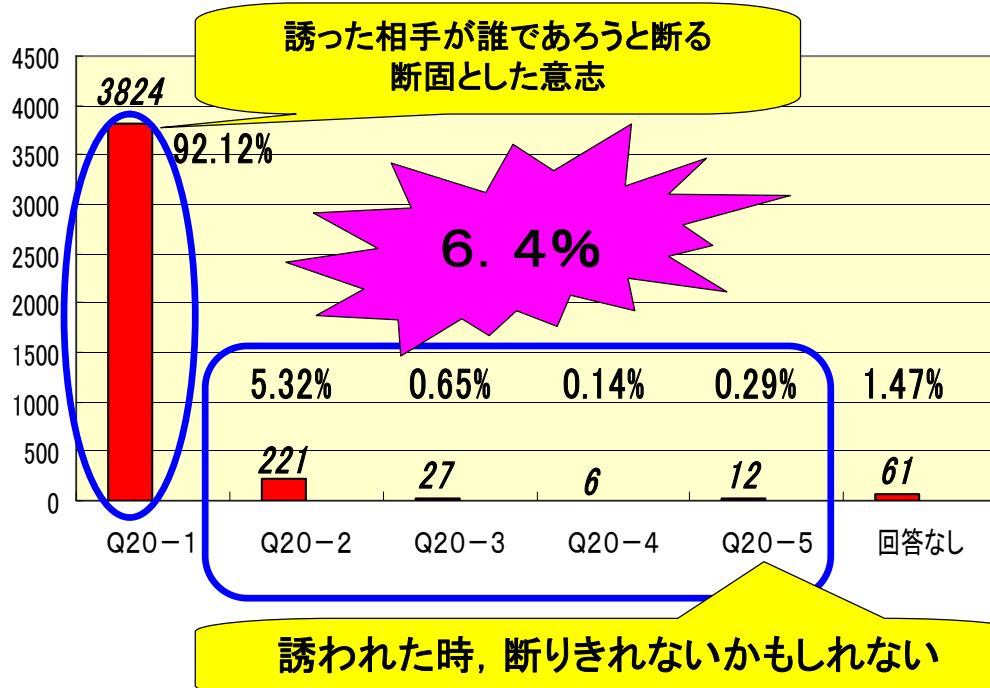
3, 好奇心や面白半分から試してみるかもしれない

4, 一回くらいであれば体に害はなさそうなので, いいのではないかな

5, 危険の少なそうな『薬物』なら断らないかもしれない

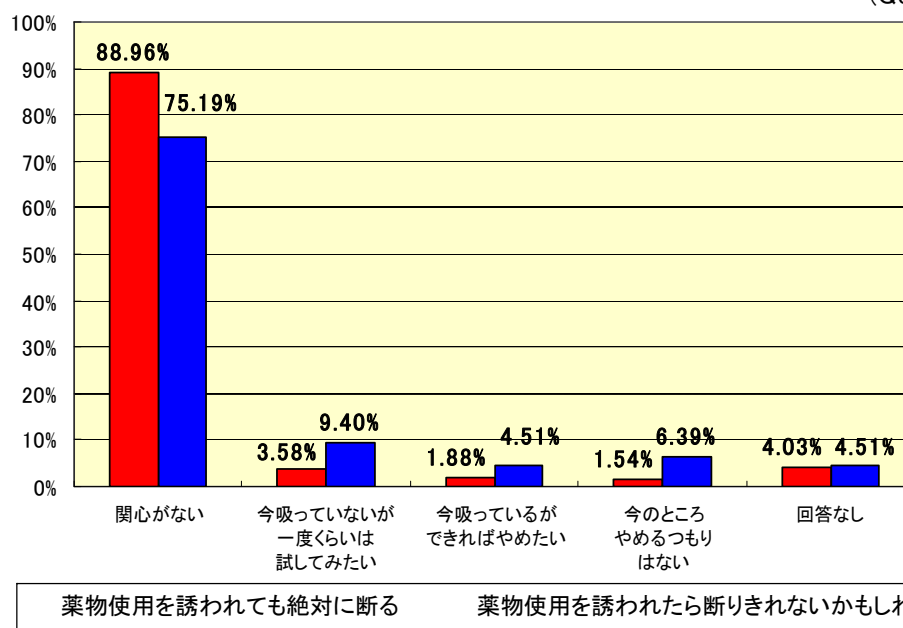
➡ 誘ったとき, 断りきれないかもしれない

薬物乱用に対する意識



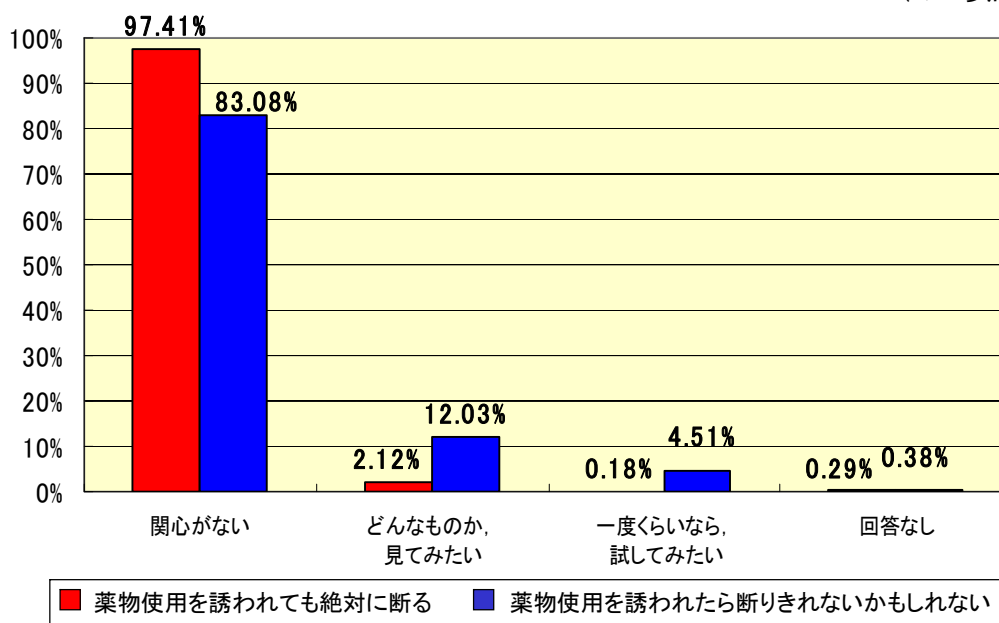
喫煙と薬物乱用に対する意識

Q:『タバコ』を吸うことについて、あなたのもっとも近い気持ちはどれですか。
(Q9参照)



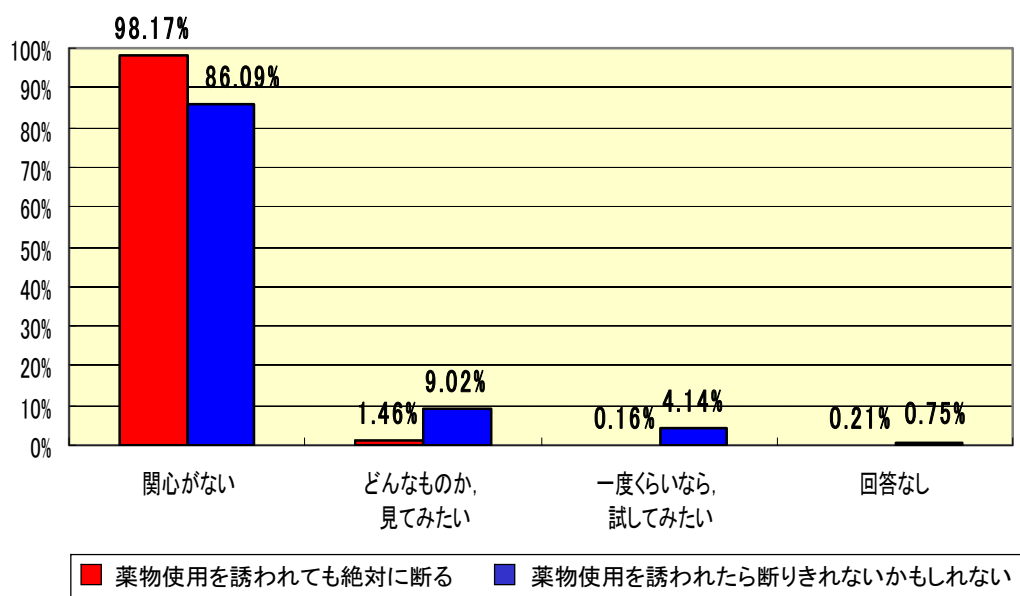
大麻と薬物乱用に対する意識

Q:『大麻』を吸うことについて、あなたの最も近い気持ちはどれですか。
(Q13参照)



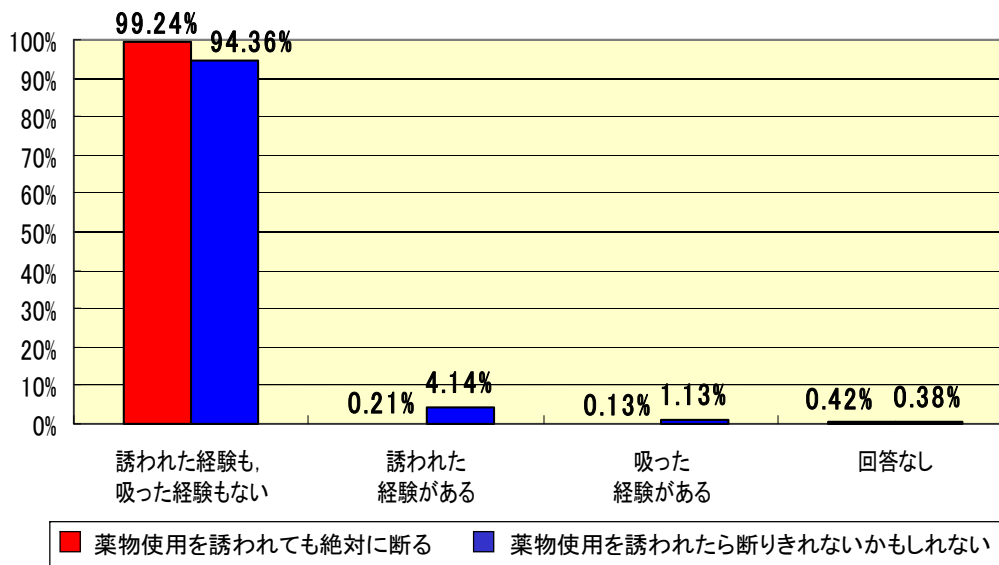
覚せい剤と薬物乱用に対する意識

Q:『覚せい剤』を使うことについて、あなたの最も近い気持ちはどれですか。
(Q17参照)



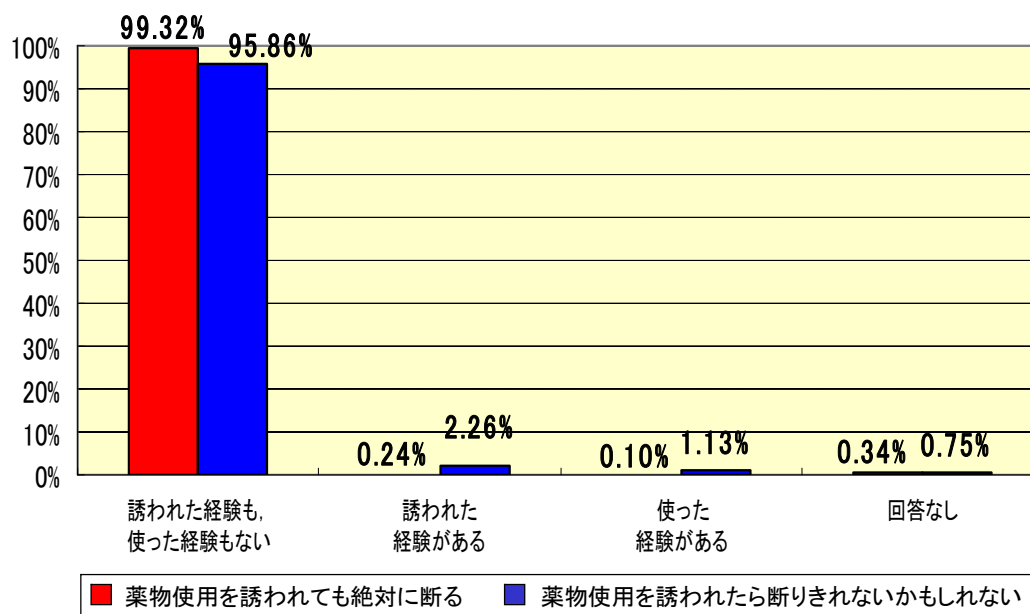
大麻と薬物乱用に対する意識

Q:『大麻』について、あなたに該当するものはどれですか。(Q14参照)



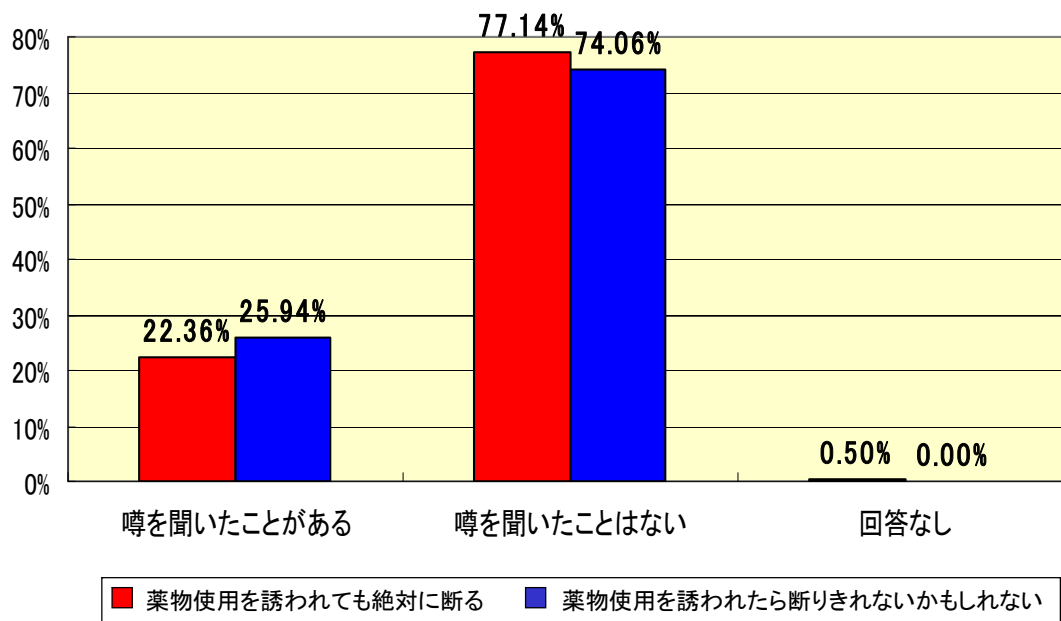
覚せい剤と薬物乱用に対する意識

Q:『覚せい剤』について、あなたに該当するものはどれですか。



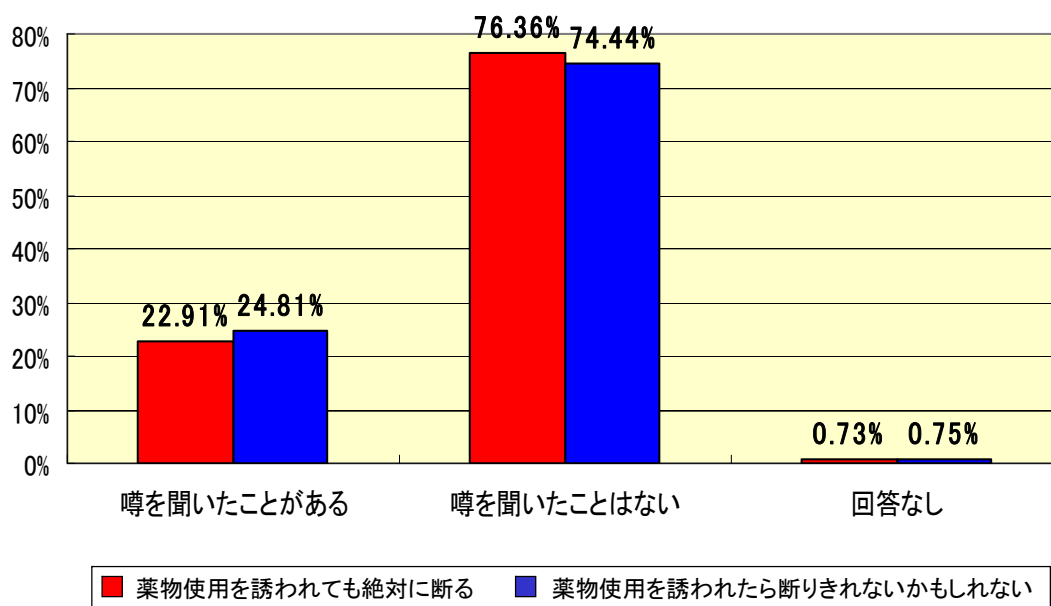
違法薬物をめぐる状況（大麻）

Q:あなたは、『大麻』を吸っている人や、クラブなどの飲酒するような場所で『大麻』が手に入るなどの噂を聞いたことがありますか。（又聞きも含む）



違法薬物をめぐる状況（覚せい剤）

Q:あなたは、『覚せい剤』を使っている人や、クラブなどの飲酒するような場所で『覚せい剤』が手に入るなどの噂を聞いたことがありますか。（又聞きも含む）



意識調査による違法薬物をめぐる状況

	関西4大学	W大学	鹿屋・肝属地区
(対 象)	2010.4新入生	2008.12在学生	2010年15才以上
(回収数)	20088	4702	4151
誘われた	1. 3%(大麻)	5. 6%(大麻等)	1. 2%(大麻等)
周囲に所持・使用した人	4. 6%(大麻)	9. 9%(大麻等)	—
誘われた時断りきれないかもしれない	6. 3%(大麻)	—	6. 4%(大麻等)

関西4大学: 関西4大学「薬物に関する意識調査」集計結果 報告書(HPから)

W大学 : 大麻等の違法薬物についての意識調査(HPから)

鹿屋・肝属地区: アンケート調査結果

主要国の薬物別生涯経験率

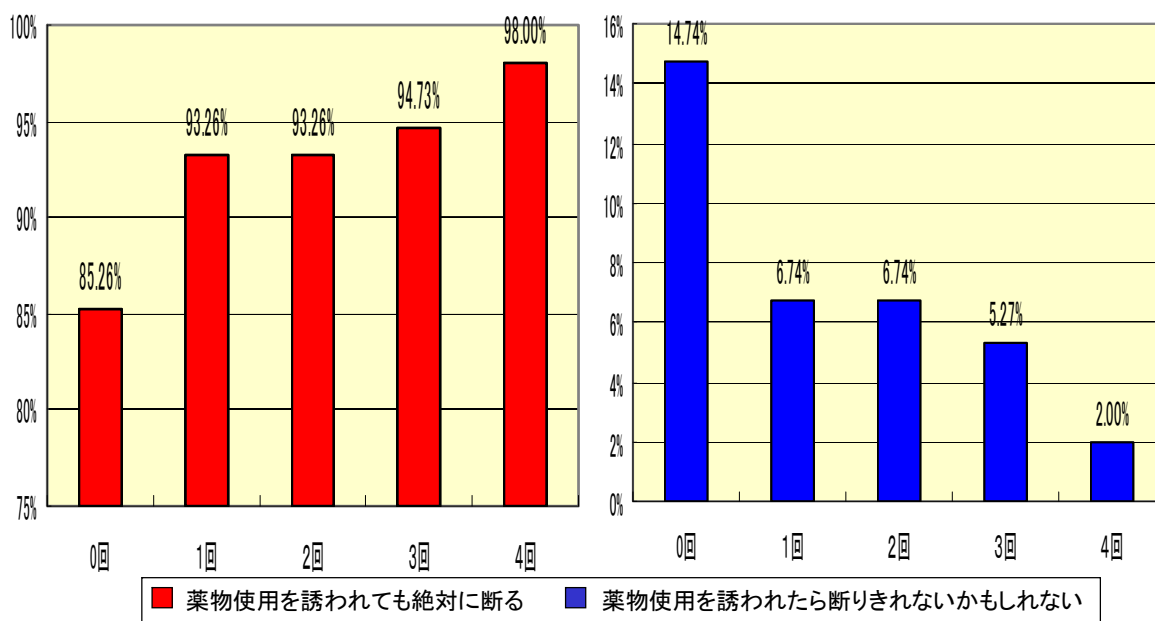
国別	調査年	対象年齢	生涯経験率(%)				
			大麻	覚せい剤 ※	MDMA	コカイン	ヘロイン
ドイツ	2006	18-64歳	23. 0	2. 5	2. 0	2. 5	—
フランス	2005	15-64歳	30. 6	1. 4	2. 0	2. 6	—
イタリア	2008	15-64歳	32. 0	3. 2	3. 0	7. 0	—
イギリス	2006	16-59歳	30. 2	11. 9	7. 5	7. 7	—
アメリカ	2008	12歳以上	41. 0	5. 0	5. 2	14. 7	1. 5
日本	2009	15-64歳	1. 4	0. 3	0. 2	0(誤差内)	0(誤差内)

※アメリカ, 日本はメタンフェタミン, その他の国はアンフェタミンの生涯経験率

出典: 日本以外の各国の数値は, EMCDDA(欧州薬物・薬物依存監視センター)資料,
HHS(米国保健社会福祉省)資料をもとに作成
日本の数値は, 平成21年度厚生労働科学研究「薬物使用に関する全国住民調査
(2009)」より

薬物乱用防止教育と薬物乱用に対する意識

Q: あなたは今までに「薬物乱用防止教育」の授業を受けたことがありますか。



まとめ

- ・MDMAのような比較的最近登場した薬物、また、大麻のようによく知られていても、別名を持つ薬物に関する知識及び認識度は低い。
- ・薬物乱用を誘われた時に、『断固として断る』と回答した者の中にも、『乱用をした経験がある。』と答えるなど、必ずしもその意識が、徹底したものではないことがわかった。
- ・『薬物乱用を誘われたときに断りきれないかもしれない』と考える割合は、関西4大学の調査の数値とほぼ同程度の値を示した。
- ・薬物乱用防止教室を受講する回数が多いほど、薬物乱用に対して、「断固として断る」という意識を増加させることにつながっている。

薬物乱用防止の啓発活動を行い、若者に正しい情報と知識を理解してもらい、どのような環境に置かれても、**薬物乱用をゼツタイにしない**という高い意識を持ってもらうことが必要である。